

チリ国カセロネス銅・モリブデン鉱床の開発に係わる資金調達等の活動の本格的開始について

日鉱金属株式会社（本社：東京都港区虎ノ門二丁目、社長：岡田昌徳）および三井金属鉱業株式会社（本社：東京都品川区大崎一丁目、社長：竹林義彦）の共同出資による銅事業会社パンパシフィック・カッパー株式会社（本社：東京都港区虎ノ門二丁目、社長：足立吉正、以下「PPC」）は、チリ国カセロネス銅・モリブデン鉱床開発プロジェクト（以下、「本プロジェクト」）について、2006年5月の権益取得以降、鉱量確認探鉱、選鉱試験等を実施するとともに、これらに基づく経済性評価を実施してまいりました。今般その中間報告を検討した結果、今後、当局からの環境認可の取得等必要な手続きはあるものの、本プロジェクトは開発するに十分な経済性があることが明らかとなったため、PPCは、本プロジェクトを開発に移行することを前提として、ファイナンシャル・アドバイザーを正式に起用し、プロジェクト・ファイナンスによる資金調達の活動等を本格的に開始することといたしました。

本プロジェクトは、山命（稼行期間）30年、総生産量については、銅が約360万トン、モリブデンが約8万8千トン、開発にかかる初期投資額が約18億6千万ドルの見込みとなっております。また、生産される銅精鉱は、PPCグループの製錬所へ供給する予定であります。

本プロジェクトが最終的に開発に移行するためには、なお環境認可の取得、経済性評価の最終確認等が必要であります。PPCは鋭意これらに取り組み、開発実現に全力を傾注してまいります。なお、現段階において想定している開発計画は別紙のとおりです。

PPCでは、本プロジェクトの推進により、自山鉱比率の18%から約40%への向上および製錬原料の安定調達を確保することにより、資源の安定供給を図ってまいります。

カセロネス（Caserones）銅鉱床開発プロジェクトの概要 （現段階において想定される開発計画の概要）

1. 建設期間：	2010年後半～2013年中頃														
2. 操業開始：	・SX-EW法による電気銅生産 2013年初旬 ・銅精鉱・モリブデン精鉱生産 2013年中頃														
3. 山命（稼行期間）：	30年														
4. 生産から出荷までのプロセス	《銅精鉱・モリブデン精鉱の生産》 採掘（露天掘り） → 破碎・磨鉱 → 浮遊選鉱・脱水 → 銅精鉱＋モリブデン精鉱 → 〈出荷〉 《SX-EW法による電気銅の生産》 採掘（露天掘り） → ダンプリーチング → SX-EW → 電気銅 → 〈出荷〉 ダンプリーチング：鉱石を粉砕せず堆積させ、希硫酸を散布し、銅を浸出（リーチング）する方式。 SX-EW法：溶媒抽出電解採取法。銅の浸出液から銅イオンを選択的に回収（溶媒抽出）し、この硫酸銅液から電解採取により電気銅を生産する。現在、世界の鉱山銅生産量の約20%を占める。														
5. 採掘対象鉱量（推定）	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">鉱石</th><th style="text-align: center;">鉱量 (億トン)</th><th style="text-align: center;">銅品位 (%)</th><th style="text-align: center;">モリブデン品位 (ppm)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">銅精鉱・モリブデン精鉱生産対象 (一次硫化銅鉱および二次硫化銅鉱)</td><td style="text-align: center;">10.7</td><td style="text-align: center;">0.34</td><td style="text-align: center;">125</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">SX-EW法による電気銅生産対象 (酸化銅鉱および二次硫化銅鉱)</td><td style="text-align: center;">2.8</td><td style="text-align: center;">0.30</td><td style="text-align: center;">—</td></tr> </tbody> </table> 一次硫化銅鉱：鉱床形成の初めに濃集した銅鉱石。黄銅鉱など。 二次硫化銅鉱：硫化物の酸化によって生じた硫酸が、酸素の乏しい状態で再び一次硫化鉱と反応し、新たに濃集形成した銅鉱石。輝銅鉱など。 酸化銅鉱：一次硫化鉱が地表付近で雨水や風化により、銅分が溶解し、酸化されたもの。胆ばん、孔雀石など。			鉱石	鉱量 (億トン)	銅品位 (%)	モリブデン品位 (ppm)	銅精鉱・モリブデン精鉱生産対象 (一次硫化銅鉱および二次硫化銅鉱)	10.7	0.34	125	SX-EW法による電気銅生産対象 (酸化銅鉱および二次硫化銅鉱)	2.8	0.30	—
鉱石	鉱量 (億トン)	銅品位 (%)	モリブデン品位 (ppm)												
銅精鉱・モリブデン精鉱生産対象 (一次硫化銅鉱および二次硫化銅鉱)	10.7	0.34	125												
SX-EW法による電気銅生産対象 (酸化銅鉱および二次硫化銅鉱)	2.8	0.30	—												
6. 鉱石処理量：	約10.5万トン／日														

7. 生産見込み量：	(当初5年間平均) 銅：銅精鉱(銅量) 約15万トン/年 電気銅 約3万トン/年 計 約18万トン/年 モリブデン：約3,000トン/年 (30年間平均) 銅：銅精鉱(銅量) 約11万トン/年 (3,152千t/30年) 電気銅(SX-EW法) 約1万トン/年 計 約12万トン/年 (総生産銅量 約360万トン) モリブデン：約3,000トン/年 (総生産モリブデン量 約8万8千トン)
8. 開発投資額(概算)：	約18.6億ドル(生産設備等初期投資額)
9. カセロネス銅鉱床の所在地	チリ第Ⅲ州の州都コピアポ(Copiapó)から南東162km, アルゼンチンとの国境から15kmに所在。 鉱床付近の標高は4,200m~4,600m。

